プラスチック・フィルムの紫外線透過率*-

松井悦造清水義弘

UV TRANSMISSIONS OF PLASTIC FILMS-II*

Etsuzo Matsui and Yoshihiro Shimizu

Plastic films were estimated as to the UV transmission percentage in the range of wave lengths 220-380 m μ in a spectrophotometer.

(1) UV transmission of polyethylene adheres to Lambert's law, i. e. "logarithm of transmission percentage of film is inversely proportional to its thickness" (Fig. 1, 2).

(2) Cellophane

Plain cellophane has high transmission percentage at any wave length. The curve of transmission is continuous and smooth. But frequently found an absorption part at 300 m μ in the curve. This is due to the fact that cellophane contains some amount of unchanged viscose, which is removable in boiling water (Fig. 3, 4).

(3) Polyvinylchloride (PVC)

Pure PVC has high UV transmission (Fig. 5).

Plasticizers do not transmit the UV rays of shorter waves because they have benezene rings in their chemical structures. (Fig. 6).

Plastic PVC compound, being composed with PVC and plasticizer, shows discontinuous transmission curve with an absorption part (Fig. 7).

The plasticizer can be removed from PVC by extracting with solvent (Fig. 8).

With heat treatmet, PVC film changes and the position of curve is shifted and finally colored to brown (Fig. 9).

(4) Polyvinylalcohol (PVA)

"Vinylon" film, PVA, is highly transparent in this region of UV (Fig. 10).

In the factory, PVA is produced by saponification of polyvinylacetate. Powdered PVA resin, which is used as the binder etc., contains a small amount of unchanged polyvinylacetate. By precipitation with ethyl alcohol, the resin can be purified (Fig. 11).

With heating PVA, its UV transmission curve moves lower in the graph, and becomes to have an absorption at 280 m μ , which may indicate the existence of the carbonyl group (Fig. 12).

(5) Polyamide

Fig. 13 shows the UV trasmission curves of "Nylon 6" films, mannfactared in Japan. The curves may be devided into two groups, in regard to the shapes of lines. Curves

^{*} 前報は本研究報告書第6号(昭39)に掲載

^{*} Previous paper: this report, series No. 6 (1964)

406, 465 and 416 belong to one group, and curves 11 and 415 belong to the other group.

Fig. 14, 15, 16—Two samples of polyamide 6, "Nylon" film, made in Japan and a sample of polyamide 11, "Rilsan" film, made in France, are extracted with solvents.

The curves of extracted films are not significantly different from those of original films. This fact probably indicates that these polyamides are pure resins and may contain no ingredient such as plasticizer.

(6) Gamma ray irradiated plastic films.

Films of polypropylene, cellophane, polystyrene, polyester, polycarbonate, polyvinylalcohol and polyvinylchloride are irradiated with τ ray of 60 Co (Fig. 17-25)

(a) The UV transmission curves of the films irradiated $1 \times 10^6 r$, are almost the same to those of original films.

(b) In many kinds of films irradiated 7×10^6 r, show great difference from original films, with respect to the shapes and positions of their UV transmission curves. And, especially, polycarbonate and PVC color to brown. On the contrary, polystyrene is not influenced, and polyester is only slightly affected by the irradiation.

(1) ポリエチレンの厚さと紫外線透過率との関係

ポリエチレン・フィルムを1枚、2枚、3枚……15枚と重ねて、波長 260mµにおけるそれぞれ の紫外線透過率を測定したら Fig. 1 の曲線が得られた. このフィルムは反射光線がほとんどない ことが別の測定で判ったので、フィルムの枚数を便宜上フィルムの厚さと考えることができる. 各々の透過率の対数値を方眼紙にプロットすると Fig. 2 の如くほぼ直線になる. すなわちフィル



ムの透過率は厚さの何乗かに逆比例し、Fambert の法則

$$\log \frac{I_0}{I} = \varepsilon S$$

(但し Io は投入光, I は透過光の強さ, S はフィルムの厚さ. € は吸光係数) に従うことが判る.

(2) セロファンの紫外線透過曲線

(i) プレンセロファン、防湿セロファンおよび特に紫外線阻止のセロファンの紫外線透過曲線を Fig. 3 に示す. この図でプレンセロファンのうち、#400. #500. #600 は正常なセロファン の曲線である. #300 と #350 の曲線の波長 300mµ における吸収部のことは後述する.防湿セロ ファンの透過曲線は短波長域で透過率が逓減している. これは防湿塗料のためである. 特に紫外線阻止剤を入れたセロファンは内容物を紫外線から保護するのが目的である. 普通の紫外線防止 剤はむしろ樹脂自身を保護するためのものである.

(ii) Fig. 4 のうち, (a) の曲線はエチレングリコールのような軟化剤の入れてない純粋のセ ロファンの紫外線透過曲線である。(b) の曲線はまだ分解されないビスコースが残存しているセ ロファンである.このことはすでに北村氏(北村竜太郎, 繊維学会誌, 18, 677(昭和37))が発表 している.この試料を熱湯に漬けるとビスコースが溶出して純粋のセロファンの曲線が得られる.



Fig. 3 UV Transmission of Cellophane ([)

- (a) Plain Cellophane
- (b) Moisture Proof Cellophane
- (c) Specially UV Proof Cellophane



Wave Length $(m\mu)$



- (a) Cellophane, without Softening Agent
- (b) Cellophane, containing viscose
- (c) Boiled (b) in hot water

(3) ポリ塩化ビニル (PVC) の紫外線透過曲線

(i) ポリ塩化ビニルは製造工場では粉末状で生産される。用途により単一重合体も共重合体 もあり、必要に応じて多少の助剤も添加されているらしいが、元米ポリ塩化ビニルの化学式から 見ると近紫外領域では透過曲線は平滑である筈である.Fig. 5 は各種の"ゼオン"の流延フィルム のものである。

(ii) 可塑剤には種々の フタル酸誘導体やトリ・クレシル・ホスフェートの 如きその化学式中 にペンゼン核を有するものが多い. Fig. 6 はその数種の例である. ペンゼン核のために短波長のと くろは全く吸収されて不透明である.



(d) Tricresyl phosphate

(iii) Fig. 7 は P V C と可塑剤そのものの透過曲線と、両者を混じた樹脂の透過曲線とである. 波長 260~280m / に吸収部が現われるのはペンゼン核によるものであろうと考えられる.

(iv) Fig. 8 は P V C フィルムの 1 例である. (a) の曲線は元のフィルムであって, 曲線の 形から推すと, 可塑剤が少しは入れてあることが判る. これをエーテルで抽出すると可塑剤が溶 出して (b) の曲線になり, 純 P V C に近ずいて来たことを示す.

(v) Fig. 9 は市販の 硬質塩化ビニル・フィルム (少量の可塑剤が存在する)が加熱により変 化するのを紫外線透過曲線で示したものである. アメリカにも 同じ データーがあるが充分な説明



はされていない.

本実験では加熱の初期には図の如く曲線が 1点を中心にして傾斜を少しずつ変える。何 の理由か判らぬ。加熱時間が長くなると塩化 ビニル樹脂の分解が始まり、褐色化し、透過率 が低下するので透過曲線は下方に移動する。 また加熱により波長280mμに吸収が現われて 来る。カルボニル基の吸収のところである。

(4) ポリビニル・アルコール (PVA)

(i) ポリビニルアルコール, "ビニロン" フィルムは 近紫外全域にわたって 透 明 であ る. (Fig. 10) これはその化学構造式中アルコ ール性水酸基があるだけであることからも当 然である.



-106-



(ii) ポリビニル・アルコールはポリ酢酸 ビニルを加水分解して作られるが、市販の粉 末状ポリビニル・アルコールは鹸化度が87~ 89% と 98~99% とあって、どちらのものも フィルムにして測ってみると、Fig. 11 中の (1)の曲線の如く短波長のところの透過率 が著しく悪い、これを水に溶かし、アルコー ルで沈殿させて精製すると(2)の曲線の如 く平滑になる.

(iii) ポリビニル・アルコールは熱処理す ることにより耐水性になる. Fig. 12 中の (2)の曲線は 130°C, 6時間加熱したもの の紫外線透過曲線である.(3)の曲線は130 °C, 6時間加熱したものであるが,波長280 mµ 付近に吸収が現われた.これはやはりカ ルボニル基によるものではなかろうか.波長





(3) Heated at 130°C for 6 hrs.

-107 -

330 mµ 付近の吸収は何に原因するか今のと ころ判らない。

(5) ポリアミド

(i) ポリアミド 樹脂は - CO・NH-基 を有する,我国では二つの会社が"ナイロン 6"を生産している。そのフィルムの紫外線 透過曲線は Fig. 13 に示す如くである,波長 230mµ ではどれも透過率が零であるが、透 過曲線がそれより 250mµ まで急増し、次に 平坦になるものと,漸増型で波長 280mµ で 屈折点のある曲線のものとあることがこの図 で判る。

(ii) Fig. 14 は"ナイロン6"フィルムと それの溶剤抽出後の紫外線透過曲線である.







Fig. 14 UV Transmission of Polyamide (11) ("Nylon 6" Film, and after Extracted with Solvents)

(a)	Extracted	with	aceton
ÌЪ́)	"		ethyl alcohol
(c)	"		benzene
ίh)	· · · · ·		n-heptane
(e)	11		diethyl ether



Wave Length $(m\mu)$

Fig. 15 UV Transmission of Polyamide (III) ("Nylon 6" Film and after Extracted with Solvents)

(a)	Extracted	with	n-heptane
(b)	"		acetone
(c)	11-		diethyl ether
(d)			benzene
(e)	"		ethyl alcohol

- 108 ---

それらの曲線の位置に大差のないのは溶出す る夾雑物が余りなかったことを意味する。し かし元のフィルムの透過曲線にあった波長 280m μの屈折点が溶剂抽出でなくなってい る。(厚さが増したので曲線の位置が移動し ただけである)

(iii) Fig. 15 は急増平坦型透過曲線の"ナ イロン6"フィルムとその溶剤抽出後の紫外 線透過曲線である,溶剤で抽出されるものは なかった。

(iv) Fig. 16 はフランス製ポリアミド11, "リルサン"フィルムとその溶剤抽出後の透 過曲線である。ほとんど変化がない。

(6) プラスチック・フィルムの放射線照 射による紫外線透過曲線の移動

プラスチック・フィルムに ⁶⁰Co による7 線を 1×10⁶r 照射してみた.その紫外線透過 曲線の位置が少しばかり移動するものと.ほ とんど元と変わらないものとがあった.さら に 7 線を 6×10⁶r 照射して,合計 7×10⁶r の照射線量では透過曲線の移動が著しくなっ た.その結果は、

ポリエチレン (Fig. 17), ポリプロビレン (Fig. 18)、プレン・セロファン (Fig. 19)、 ポリカーボネート(Fig. 22, 褐色化)、ポリビ ニール・アルコール (Fig. 23)、 硬質塩化ビ ニル樹脂 (Fig. 24, 褐色化)、および内部可 塑化塩化ビニル樹脂 (Fig. 25, 褐色化) は透 過曲線が著しく移動し、または曲線の形が変 わった、透過曲線の位置がほとんど変わらな いものはポリスチローズであった、少し曲線 が変形しただけのものはポリエステルであっ た、この二つはその化学構造式中にペンゼン を有するものである。





